

2378
331

命管虚實録

櫻川慈悲成作

全部六冊

上之卷

歌川豊国画

永壽堂

文政十四年辛卯孟春

西村梓

一

先小人^ニ在笑^ニをせ^テて^リ青本^ニの戲作者^ノ先生^ノ多^クあり^シ芝^ノ...

に^モ芝^ノ全交河^ヲを^テする^ガ師^ト芝櫻川杜芳^ノあり^テ全交^ヲ長物^ト...

諸杜芳^ノの夢茶修行押^ノの強者^ノその^ニの強^ヲは^シる^ガ戯作^ト...

志^スく^テ腹^ヲ乃^リ皮張^ルや^シも^シ今^ノの^ノむ^キに^テむ^キう^ノと^ナり^シ...

先^ノ其^ノの^ノと^リし^テ今^ノ富川房信^ノ奥村政信^ノの草本^ノ古^ノ...

物^ノ乃^リ流^行は^シる^ガ成^リた^ニと^シて^リ天明寛政^ノの^ノ助書^ヲを^テ久^クあり^シ...

に^モ戯言^ヲ言^フと^シて^リ馬喰町^ノの^ノ主人^ノの^ノ勧め^ヲの^ノ門^ヲく^テ入り^シの^ノ...

け^レり^シか^シて^リ今^ノを^テ昔^ノ子^ノ染分^ヲを^テ綱馬^ノ之^ノ様^ノの^ノ淨^ヲ功^ヲを^テ...

魚^ノが^レ飯^ヲの^ノ部^ノ度^ノに^テむ^キは^シる^ガ...

哥川豊国五年前之画
文政十四年辛卯春発兌

芝ツ子の櫻川

今昔



ゆきけ こしやう
 陶木家の小性
 鷺塚八平治



徳若小性
 在初の上段向を
 杜若鼻をかける
 八ッ橋乃其むさむさ
 江戸乃花染まき
 松乃一鼓の志々四海波
 直向山んで口狂言渡ある
 ある勢塚伊達此一卷の

狂言師のうらまを
 口画の志々

同小性
 伊達與作



関の

出女

小万

此画の積

馬乃北の子

柳と標や

伊勢

自然草

三吉



与作

與八郎

桂政

藝子

伊呂波

波羅門密右衛門
（とらひんみさへもん）

横面
（よこめん）
春藏
（はるぞう）



以持
（もち）
ゆき
（ゆき）
浮る
（うかる）
まの
（まの）
ま
（ま）

博
（はく）

羊虫
（ひつちゅう）
小郎
（せいらう）

あし
（あし）
しん
（しん）
は
（は）
ぢ
（ぢ）
ぢ
（ぢ）
ぢ
（ぢ）
ぢ
（ぢ）
故入
（こいり）
談洲樓
（だんしゅう）
馬馬
（ばば）

あ
（あ）



間雲利金太
（まぐもりきんたい）

五



其昔夏の月
向ふと夕の
草庵

ちりり
たまに
あつと
さびと
隠居
白猿
トまれば
かたを湯と
本行署一香の
善張衣鳥の
乃女寺

能師
竹村定之進



陶水
馬之丞殿



故人

歌川

豊國

似顔 三季 紅実 梅の 加乃 乃 扇

此傳は秘しても波は上のや上まは
あふ夫の根を解とてうやうや
衆人の私兄弟分の故人歌川豊國
茶室程まの画圖も中々のまはけは
只今の二天目歌川豊國大いなる
此き先の豊國同格はひあま
此なきの世礼何があとやまはあまの
ままのこころにやまはあまの
此のこころにやまはあまの
名もあまのこころにやまはあまの
豊國とて世の世の世の世の世の世の

吉人あまのこころにやまはあまの
行年七十才の親父櫻川慈張成やま



一陽 奇子 龍 目 故人 自作



今更び山道の國主にけぬ本はあんな
 どの里ちやく子ゆる木馬の梨どのと
 中のもころちるるるるまれゆま
 りうさのりこのむじおと八
 大管徳次めひさくつひまきさの
 ちちもあんな
 るたむん
 ち月と
 ちり
 あん
 微の
 さん
 りんどの
 中あま
 ちちをい
 けるかんを
 西修達の
 与三系が
 せられ手
 ちつ
 女まが

女まが
 ちつ
 せられ手
 与三系が
 西修達の
 けるかんを
 中あま
 ちちをい
 けるかんを

おあんな
 どのむん
 りんどの
 のの中
 ちちをい
 けるかんを
 西修達の
 与三系が
 せられ手
 ちつ
 女まが

ちちをい
 けるかんを
 西修達の
 与三系が
 せられ手
 ちつ
 女まが

女まが
 ちつ
 せられ手
 与三系が
 西修達の
 けるかんを
 中あま
 ちちをい
 けるかんを



今更び山道の國主にけぬ本はあんな
 どの里ちやく子ゆる木馬の梨どのと
 中のもころちるるるまれゆま
 りうさのりこのむじおと八
 大管徳次めひさくつひまきさの
 ちちもあんな
 るたむん
 ち月と
 ちり
 あん
 微の
 さん
 りんどの
 中あま
 ちちをい
 けるかんを
 西修達の
 与三系が
 せられ手
 ちつ
 女まが

女まが
 ちつ
 せられ手
 与三系が
 西修達の
 けるかんを
 中あま
 ちちをい
 けるかんを

女まが
 ちつ
 せられ手
 与三系が
 西修達の
 けるかんを
 中あま
 ちちをい
 けるかんを

今更

五





慈心悲心成はるる
 豊国多々の
 卯の妻新板
 馬喰町三丁目
 西村版
 今世の
 虚実録
 中巻



三三三三三
 月日
 其外よりてまふまふとてさる麻ふ
 つらつらあつたのりさあつた
 みやうがめれのりさあつた
 手やまのりさあつた

あんなに
 月日
 其外よりてまふまふとてさる麻ふ
 つらつらあつたのりさあつた
 みやうがめれのりさあつた
 手やまのりさあつた



定
 真細務
 万
 舞
 生舞
 橋つり

引
 青
 大
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

昔の公家暮らしは、
その中での政家も、
あつたやうな、
ゆけをまじせり、
きこりけるうひ、
なむの人と



いふこと、
なむの人と

公家
うま
いふこと

いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と



いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と
いふこと、
なむの人と

下は...の...尾上...
 尾上...の...
 ...
 ...
 ...

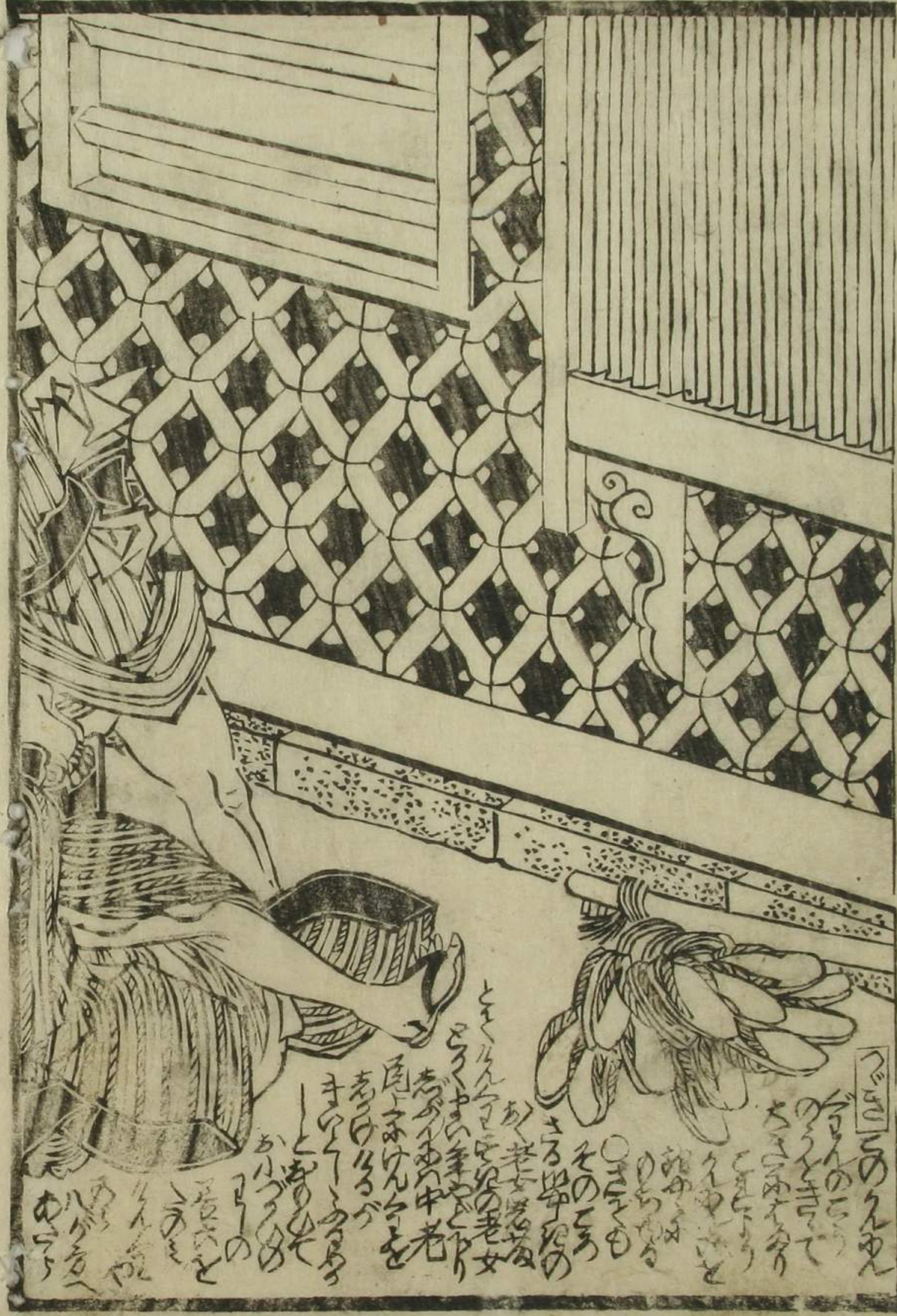


...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...



國の事をたゞさうぶわわの多
 百五の事なみに八五の事な
 七五の事なみに八五の事な
 六五の事なみに八五の事な
 五五の事なみに八五の事な
 四五の事なみに八五の事な
 三五の事なみに八五の事な
 二五の事なみに八五の事な
 一五の事なみに八五の事な

八
 二五の事な
 三五の事な
 四五の事な
 五五の事な
 六五の事な
 七五の事な
 八五の事な
 九五の事な
 一〇五の事な
 一一五の事な
 一二五の事な
 一三五の事な
 一四五の事な
 一五五の事な
 一六五の事な
 一七五の事な
 一八五の事な
 一九五の事な
 二〇五の事な



あはれ
 七五の事な
 八五の事な
 九五の事な
 一〇五の事な
 一一五の事な
 一二五の事な
 一三五の事な
 一四五の事な
 一五五の事な
 一六五の事な
 一七五の事な
 一八五の事な
 一九五の事な
 二〇五の事な

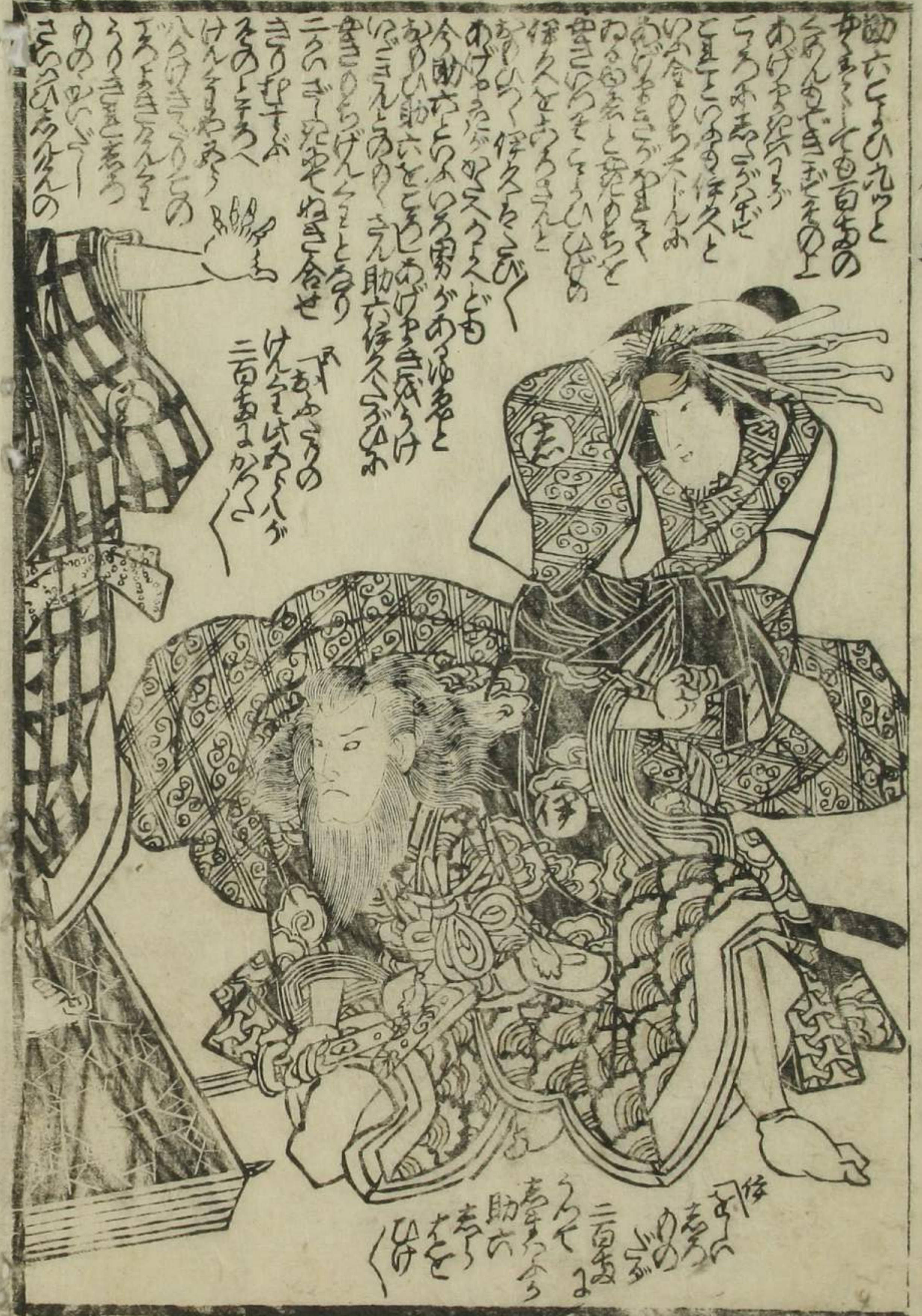
八
 七五の事な
 八五の事な
 九五の事な
 一〇五の事な
 一一五の事な
 一二五の事な
 一三五の事な
 一四五の事な
 一五五の事な
 一六五の事な
 一七五の事な
 一八五の事な
 一九五の事な
 二〇五の事な



よのけなき
百あやしの
みやうがの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん

あやしの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん

あやしの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん



あやしの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん

あやしの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん

あやしの
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん
さかきとけん



あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり
あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり

あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり
あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり

十日

あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり
あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり



あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり

あつちうけ
金のいろ
えあを
きうてん
いのいり



櫻川慈悲成作
歌川豊国画



下冊

下

今じつ一守持の室録

下巻

介の

慈悲成作

西真

喜新編

豊國画

版

五

公年治の年大武はの
 入とあり今助六とのふ
 断入中々々よきさあやう
 どもあるはずとあひの
 ひとまろ三又へると
 うめい一わすこの
 らうめんであらあ
 武はのあせん
 門での申せんを
 のてるやう川の
 松幸へつても
 ○三又へあわりの
 りんとあわりの
 松のこのざにた
 ほらうろす
 きののあや
 小まんを
 よびけまても
 志の非と
 のあはもあす
 くのあ
 まの井
 八重とあ
 らうろ
 うるあやして



一関の小まん
 上とあ
 のあ
 母のあ
 甘ん
 こを
 四らん
 入
 中

新土前



おちかきのみ
おちかきのみ

うちまこ
さんとお
おちかき
おちかき
おちかき
おちかき
おちかき

せりあか
まろく

おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ



おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ

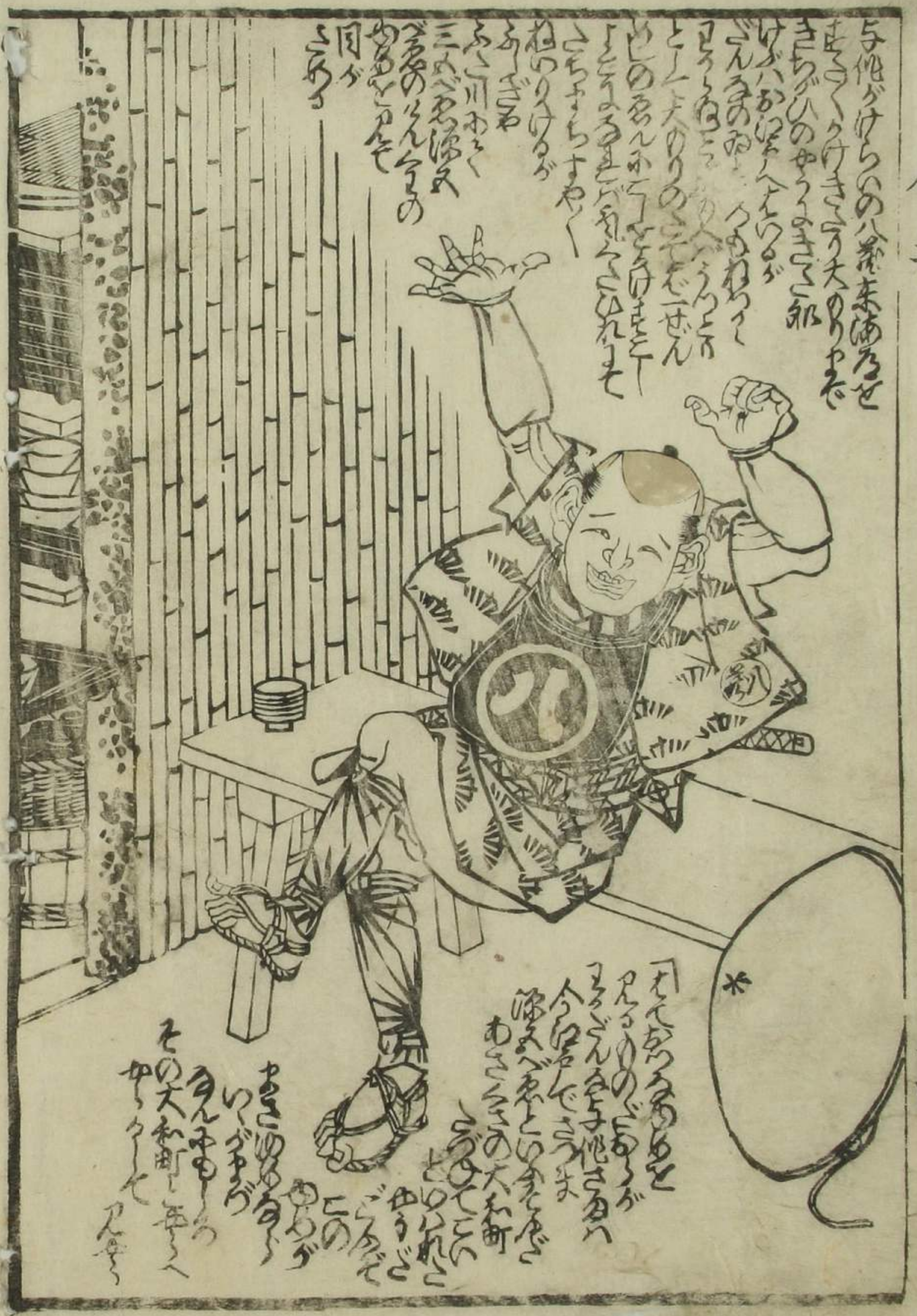
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ
おちかきのみ



うたわ

月

月をよみて
 森のうらまへ
 エアがまんまを
 わがり
 ます



与他がけらのの八景未満を
 まるくうけまきう大のりわを
 きちひのやうまきこ部
 けんおひんていのか
 さんまのやうめわ
 ころもわ
 とく大のりのこません
 じのあんおこまを
 こちちちすわ
 ねのりひるか
 ぶさ
 ふく川わ
 三ふんおひん
 ぶあめんまの
 わあかんま
 同
 こ

おてあつあつと
 見るのこらうか
 まるくうけまきう
 今おんてま
 波えんまのまを
 わあかんまの
 こ
 ちのり
 かんま
 ぶあめんま
 その大和町
 中
 八



八巻大のりの
 くそむちやん
 うらまき
 むらさき大蛇
 与他小のめん
 うらまきの友を
 待望のうらま
 しのうらまを
 うらまのうらま
 うらまのうらま
 うらまのうらま

八巻
 五巻
 四巻
 三巻
 二巻
 一巻

八巻大のりの
 くそむちやん
 うらまき
 むらさき大蛇
 与他小のめん
 うらまきの友を
 待望のうらま
 しのうらまを
 うらまのうらま
 うらまのうらま
 うらまのうらま



八平治のけらいの
 本もちのいそ
 いそぢやま
 けあおの
 うらまの
 うらまの
 うらまの
 うらまの

八巻大のりの
 くそむちやん
 うらまき
 むらさき大蛇
 与他小のめん
 うらまきの友を
 待望のうらま
 しのうらまを
 うらまのうらま
 うらまのうらま
 うらまのうらま



八重の松の影に
 乗らば馬の如きは
 伊豆の山と三つ
 五つと云ふは
 伊豆の山と三つ
 五つと云ふは
 伊豆の山と三つ
 五つと云ふは
 伊豆の山と三つ
 五つと云ふは

今昔
 今昔
 今昔
 今昔



今昔
 今昔
 今昔
 今昔

今昔
 今昔
 今昔
 今昔



廿四

廿五



廿六

芝櫻川慈悲成作

歌川豊国画



ゆきよのあはれ
伊達ついで
あはれみとん
あはれやうしと
あはれまの
あはれまの
あはれまの
あはれまの

月のまを
ひさしをかきまよ
まよどまよ

千代緒良著聞集

第一輯

上帙四冊曲亭馬琴作
下帙四冊歌川國安画

戲場正本當現建

初編四冊立川馬馬作
二編四冊香蝶樓國貞画

菊の井小七時雨傘

志満山人作

錦繪園宿地紙巻類
書物地本問屋

今昔虚之實録

桜川慈悲成作

江戸馬喰町三丁目南角
永壽堂西村屋與八

歌詩淡之曙

柳川重信画

書物地本問屋
永壽堂西村屋與八

御詠替嶋廻

歌川國安画

美香
香
香
香
香
香
香
香

